

4. 背景

(1) 韓国に対する意識

周知の通り、旅行業界においては韓国が人気スポットとなっている。いわゆる韓流ブーム、韓国料理への親しみ、円高など様々な要因が重なり、かつては「近くて遠い国」いう印象だった同国への関心が一挙に高まってきた。当地における日本文化への容認も進み、民間の交流レベルは今後も益々盛んになっていくものと予想される。

サッカーの世界に目を転じると、日韓戦などの代表クラスの試合でも分かるように選手のみならず、大衆を巻き込んでヒートアップしていく。韓国では学生クラスにおいても日本チームと対戦する場合、試合に関して言えばよりアグレッシブとなる傾向があり、国内のサッカー指導者からしてみても親善の域を超えたハードな勝負となるため、韓国チームとの対戦はサッカーレベルの強化を図るには絶好の機会であると評価する方がたいへん多い。

(2) 現状のサッカー韓国遠征の問題点

前述の通り、当社代表者はその経歴より、国内外のサッカー界に幅広いネットワークをもち、元々韓国サッカー協会などとも親交があった。その縁で国内の学生やクラブチームから、「サッカー韓国遠征」に際し、韓国側窓口との口利きを依頼されるようになり、そこから端を発し、国内チームの韓国遠征にも帯同し、ノウハウを積み上げながら実務的なお世話をさせていただくようになった。

国内チームが韓国遠征を希望する場合、大手旅行会社などを通じて、企画やセッティングを依頼する形が一般的である。通常そのようなケースにおいては、韓国現地にかかる各種手配等の部分については、大手旅行会社が提携する韓国国内の旅行会社に再依頼して対応している。確かに旅行会社としてのノウハウで一応の行程は組めるものの、当然ながらサッカーにおける知見レベルは低く、クライアントである遠征チームが満足するレベルには達していない。

言い換えれば、当該チームの主たる目的はサッカーレベルの強化であるが、コーディネートする者が観光のプロである旅行会社であるため、どうしてもミスマッチ部分が生じてしまい、不満が残る結果となっている。

<具体的な不満を生じる事例>

- ・技量のレベル差のある対戦相手をオファーしてしまうことが多い事。
 - *遠征チームが中学生レベルなのにもかかわらず、大学生レベルとマッチメイクしてしまうケースなど。
- ・審判員をボランティアなどでまかなってしまい、試合進行などの支障が出てしまう事。
- ・現地ガイドがサッカー自体を十分理解しておらず、練習場の確保、天候急変の場合の移動手段、ケガ等の場合の救急対応措置など、想定され得るケースにフレキシブルな対応ができない事。
- ・海外遠征にかかるサッカー協会への手続きなど、サッカーに纏わる様々な事柄に対応できない事。
- ・韓国国内旅行会社と連携するため、必要以上の食事・買物観光の行程が組込まれる事など。